

京都出町のエスノグラフィ——ミセノマの商世界

バザールワールド



ブックトーク まちに宿る野生

有馬恵子著

『京都出町のエスノグラフィ——ミセノマの商世界(青土社)』をめぐって

2026.4.20 15:00-16:30

ZOOMと対面によるハイブリッド開催

事前申込み要 参加費 無料



参加申込はこちら



Kyoto Demachi,

an Ethnography of the bazaar world. ——

Arima Keiko



CSEAS WEB
アクセス

ブックトーク まちに宿る野生

『京都出町のエスノグラフィ
—ミセノマの商世界(青土社)』をめぐって

2026.4.20 15:00-16:30



詳細 / 参加申込み

事前申込み要

参加費 無料



司会:石川 登



著者:有馬 恵子



ゲスト:小川 さやか
(オンライン、予定)



ZOOMと対面によるハイブリッド開催

京都大学東南アジア地域研究研究所 東棟 1 階 リサーチcommons

<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/researchcommons>

<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/access/>

<https://forms.gle/Xzn5HHg26eFWiP187>

プログラム

司会:石川 登 京都大学東南アジア地域研究研究所教授

趣旨説明

第一部 自著を語る

第二部 セッションと質疑応答

ゲスト:小川さやか 立命館大学教授(オンライン、予定)

これまで個人が営む小さな店は、近代化や工業化の進展によって滅びゆくものとして認識されてきました。しかし店は、通りやまちを使いこなしながら、社会の変化に自らを適合させ、時に抵抗しながら生き延びています。その核にあるのは、店やものを介して生みだされる技芸、すなわち、手仕事などの技術、わざ、仕事をする能力、技能といったものではないでしょうか。ブックトークでは、京都出町で見られた人やものの寄せ集まるすがた、かたち、ありようといった多種多様な「技芸」を紹介します。その上で、主に二点議論を深められたらと思います。

一つ目は、フィールドの技芸を見る、技芸からフィールドを見るという方法論についてです。私は、社会制度や機能に無数の細かな穴があく「失われた二十年」ともいわれる2000年代に、建築や音楽、現代美術の領域で、専門家と非専門家といった複数の領域・属性が重なりあう際の、その隙間にあるものをつなぎあわせて、それを取りだして何らかの作品として見せる仕事をしてきました。学術の世界に足を踏み入れたのは2020年のことですが、認識論、方法論を深めようとする度に現場での経験が頭をもたげ、学術的なディシプリンをはっきりと示すことができませんでした。代わりに、フィールドワークを綿密に重ねて、建築、音楽、アートの実践者としての経験を踏まえた分析や記述を志してきました。たしかに手応えが感じられるようになったのは、博士論文を書き終えて書籍化された後、正確には現在所属する京都大学東南アジア地域研究研究所でフィールドワークから導きだされた多様な議論に触れてからのことでした。エスノグラフィという方法は、ディシプリンを水平に繋ぎ、学術という領分の小さな網の目を潜り抜けて、多声的な声をより広い世界に響かせる方法の一つとしてあるようにも思われます。エスノグラフィという方法は、建築、デザイン、アートといったより実践的な分野にもひらかれていることを具体的に示すことができたらと思います。

二つ目は、文化人類学、地域研究と接続する議論です。京都出町の建物の軒先や喫茶店のカウンター、壁といった場所を、生産、交換の場所として捉えると、このような領域は、自治と自律を優先しようとする人びとが棲まう領域、いわば「都市のゾミア」としてあるようです。あるいは、社会の中に固有の生存ニッチを見いだすことは、互いの協力や依存関係を重要視することで互いに生き抜く、「モラル・エコノミー」の現代版のようにも見えます。

今回のブックトークを通じて、京都出町という私たちが今いる場所から別の世界とつながりや広がりを持つ議論が展開されることを楽しみにしています。

書誌情報

京都出町のエスノグラフィ—ミセノマの商世界、青土社、2025年 <https://www.seidosha.co.jp/book/index.php?id=4039>

関連情報

岩波書店『世界』2026年3月号 <https://www.iwanami.co.jp/book/b10159266.html>

有馬恵子 (京都大学東南アジア地域研究研究所特定研究員、日本学術振興会特別研究員PD)

エスノグラフィック・リサーチの方法を用いて、建築、音楽、アート実践者としての経験を踏まえた分析・記述をおこなっている。キュレーターとしての仕事に、アーツ前橋10周年記念展「ニューホライズン 歴史から未来へ」(2023 - 2024年)、《建築的思考のパラダイム—アーキテクチャーの現在形》(TRANS ARTS TOKYO, 2012年)など。音楽のプログラム・ディレクターとしての仕事に、《さっぽろコレクティブ・オーケストラ》(札幌国際芸術祭2017)、《アンサンブルズ・アジア・オーケストラ》(国際交流基金アジアセンター主催、2014-2017年)、《東北ユース・オーケストラ》(ルツェルンフェスティバル・アークノヴァ松島2013)など。共著に、*Architecture and the Test of Time* (Detail Publishers, 2012年)。立命館大学大学院先端学術総合研究科博士課程修了。博士(学術)。